

2005～06シーズンローカルルールについて

日本国内におけるアイスホッケー競技は、原則として国際アイスホッケー連盟が制定した公式国際競技規則2002/2006年度版に基づいて運営されております。しかしながら、公式国際競技規則は、国際アイスホッケー連盟が主催する世界選手権大会における適用と運用を前提としているために、それをそのまま日本国内の全ての大会に適用することは困難な規定が含まれております。そこで、日本国内の事情等を考慮して、公式国際競技規則とは異なる規定を設けた方がよいと思われる条項を、日本国内におけるローカルルールとして定めましたので通知いたします。

◎第200条 ユニホームを着用した選手

① チームスタッフ(役員について)

全国大会およびこれらの予選会においては、最低1名のチームスタッフのベンチ入りを義務づけるものとする。但し選手と兼任のプレイングマネージャーは認められない。なお、各加盟団体主催の大会においては、上記を参考にして、普及の面を考慮し、競技運営委員会と協議の上、プレイングマネージャーを認める等の独自の規定を設けてもかまわない。

◎第224条 プレイヤーのバイザー(関連:第600条、第650条)(変更)

国際競技規則の『18歳以下に関する特別規則』(第650条の細則参照)は、2005-06シーズンにおいては、1988年生まれからのプレイヤーが該当する。したがって、2005年春に大学生になったプレイヤーは、早生まれであっても1987年生まれになるので、フルフェイスマスクを着用する義務はない。但し、最低限国際規格を満たしたバイザーを使用しなければならない。また1987年以前生まれでも、高校の学校単位チームおよび各種クラブチームに所属し、高校生以下の大会(国体少年の部含)に参加するプレイヤーは、フルフェイスマスクを着用しなければならない。

◎第226条 首とのどのプロテクター(関連:第651条)(変更)

- ① 男子プレイヤーの首とのどのプロテクター着用義務は、第224条のカテゴリー分けを基準とする。
- ② 女子プレイヤーの場合は、年齢・プレイヤー・GKに関係なく全員が着用することを義務づける。
- ③ GKの場合は、ショルダーパットと一体化したものでは安全性が不十分なため、独立したプロテクターを着用するものとする。

◎第227条 マウスガード(変更)

- ① マウスガードの種類については、『オーダーメイド』を奨励するが、市販のものを使用しても構わない。
- ② 大学チームに所属するプレイヤーおよび1986年生まれからのプレイヤーは、国内のいかなる大会においてもマウスガードの着用を義務付ける。但し、フルフェイスマスク着用のプレイヤーは、マウスガードを着用しなくても構わない。

◎第234条 ゴールキーパーのヘルメットとフルフェイスマスク(関連:第650条)(変更)

キャッツアイ型のマスクの使用は、前述の第224条のカテゴリー分けと同様の解釈をするものとする。但し、女子のキャッツアイ型フェイスマスクの使用については、1987年及びそれ以前に出生した者が着用を認められる。

◎第240条 ユニホーム(変更)

- ① ユニホームの色が、ルールで規定されている基本となる色の割合(約80%)を明らかに違反しているデザインのもの(例:グラデーション等)であっても使用することが出来る。但し、その試合を担当するレフェリーにより対戦チームとの区別がつきにくまぎらわしいと判断された場合、ホームチーム・ビジターチームに関係なく、まぎらわしいと判断されたユニホームを使用しようとするチームに対し、ユニホームを交換もしくはベストを着用させることとする。
- ② 全国大会およびこれらの予選会において、単独チーム名で出場する場合(補強選手を認めた大会において、単独チーム名で出場する場合は、この規則通り同じユニホーム・パンツ・ストッキング・ヘルメットを着用することとし、また番号の表記についても規則通りの解釈を適用するものとする。なお、選抜・合同チーム名により参加が認められたチームについては 最低限同一のユニホーム・ストッキングを着用しなければならない。
- ③ ヘルメットにテープ・シール等を貼り付けることは構わないが、その試合を担当するレフェリーが基本となる色を明白に判別できず、そのチームの同一色と認められないと判断した場合は、チームスタッフに対してその選手のヘルメットの交換もしくはテープ・シール等をはがすよう注意をするものとする。その後も適切な処置をせずプレーに参加した場合は、中断時にそのプレイヤーの交代を命じ、直ちに交代選手を氷上に出場させることとする。(ペナルティーは科せられない。)
- ④ ストッキングに過剰にテープを巻きつけ、その試合を担当するレフェリーが明らかにそのチームの同一色と認められないと判断した場合、上記③と同様の手順をとるものとする。
※③④に関しては、ルールの問題ではなく、選手の資質の問題である。事前の会議において周知徹底するとともに、チームスタッフの指導も必要となる。
- ⑤ 各加盟団体主催大会においては普及の面も考え、大会要項によって独自の規定を設けても構わないが、最低限同一のユニホーム・ストッキングの着用を奨励する。

◎第260条 用具の計測

用具の計測が出来る状況については、ルールブック・ケースブックの記述通りの解釈を適用するが、アピールできる回数については、各加盟団体主催の大会規定により制限を決めることができるものとする。

◎第422条 タイムアウト

- ① 全国大会およびこれらの予選会において、1ピリオド20分正味時間での競技が定められている場合、規則通りにタイムアウトをとることが出来る。但し、1ピリオドの正味の時間が15分以下と定められている場合は、大会競技規則によるものとする。
- ② 各加盟団体主催大会においては、大会規定により独自の規則を定めても構わない。

◎第430条 勝敗の決定(追加)

没収試合の場合は、記録上15対0として処理される。但し、勝利を宣告されたチームがその時点で16点以上得点している場合はその得点を、また没収(敗戦)を宣告されたチームについては、常に0点として記録されるものとする。

◎第555条 不正または危険な用具

ユニホームおよびパンツ内からお守り等のアクセサリーが外に出ている場合、レフェリーはそれらの中に入れてプレーするよう警告を与えなければならない。警告にもかかわらず再度それらが外に出ていた場合は、取り除かれるまでプレーには参加できない。この際、ペナルティーは科せられない。

◎競技規則におけるローカルルール(追加)

- ① ピリオド終了時に、両チームが同一通路を使用してリンクより控え室に退場する場合、リンクの構造上を問わず、必ずホームチームから先に速やかに退場する。その際ビジターチーム(氷上にいるプレイヤー・GK含む)は、一度自チームベンチに戻り、レフェリーの指示により氷上より退場する。尚、その際ホームチームが故意に退場を遅らせたり、ビジターチームが故意に自チームベンチに戻らなかった場合、レフェリーの判断により違反したチームにベンチマイナーペナルティーを科すことが出来る。

※ レフェリーは、事前に両チームに対し注意することが大切である。

※ この規定は、ルールブック及びケースブックには記載されていないが、IF 主催大会では以前より実施・徹底されていることである。この目的は、ピリオド終了時の余計な争い事を未然に防ぐ為である。これにより、ピリオド終了時のオンアイスオフィシャルの役割(ポジショニング・プレイヤーコントロール)が重要となる。

- ② 高校生以下(国体少年の部含む)の大会において、プレイヤー・GKはもちろんのこと、チームスタッフ(マネージャー・トレーナー)としてベンチ入りする児童・生徒についても、危険防止のため必ずフルフェイスマスク付のヘルメット着用を義務づけるものとする。レフェリーは、規定に違反している児童・生徒を発見した場合、チームスタッフに対し該当者をベンチから退出させるように注意し、正しい装備をしてからベンチ入りを認めるものとする。この場合ペナルティー(ベンチマイナー)は科せられない。(社会人・女子等の大会で年齢カテゴリーが混在する場合は、各大会規定により決定するものとする。)

※ 上記①②については、事前の会議において周知徹底してください。

※ 各加盟団体主催大会においても実施するようお願いします。